

国立大隅青少年自然の家 海浜活動 引率者ガイド

このガイドは、国立大隅青少年自然の家におけるカヌーやゴムボート等の海浜活動を安全に実施するために、引率者の方に事前にご確認いただきたい事項をまとめたものです。

1. 事前の対応

(1) 事前指導

次の①②について、事前に参加者に指導ください。

①準備物の周知（安全上必要なもの：ア～ウ、あると望ましいもの：ウ）

ア. 濡れても乾きやすい長袖・長ズボン（ジャージなど、化学繊維素材を推奨）。肌の露出、水着は不可。

イ. 濡れても良い靴。サンダルや素足は不可。

ウ. 濡れても良い靴下（丈はかかとから 15 cm 以上を推奨）

※引率者も上述ア～ウを持参ください。安全管理上、引率者も入水します。



エ：飲み物（水分補給は陸上で行います）

オ：抗ヒスタミン剤軟膏（クラゲなどの腔腸類や有毒生物に刺された傷に有効）

②危険行為の把握

ア. 故意に、沖へ出たり、活動エリア外（詳細後述）に出たりしない。

イ. 故意に、船体を他の船体にぶついたり、海に落水したりしない。

ウ. 沖の消波ブロックは、危険であるため近づかない。

エ. 絶対に単独行動をとらない。また、引率者は参加者から目を離さない。

オ. ライフジャケットと靴は、管理棟に戻るまで脱がない。

カ. パドルやオールは、振り回さない。移動時は立てて持つ。

キ. 危険生物がいるため、動植物をむやみに触ったり踏んだりしない。

ク. 見学者は、一人にならない。やむを得ず一人になる場合は、管理棟又は艇庫内で待機する。

ケ. 見学者は、出艇前・着艇前に浜遊びしない。カヌー等との接触事故に繋がる恐れがある。

(2) 引率者の役割の決定

事前に次の役割分担を行い、責任を持って活動中の安全監視を行ってください。

①堤防監視員（1名）：堤防から、監視を行います。詳細は後述します。

②監視艇救助員（1名）：監視艇（動力船）に、自然の家職員と同乗します。詳細は後述します。

※引率責任者（1名）：実施にかかる各判断を、施設職員と行います。①か②と兼務できます。

※2交代制で見学者を浜遊びさせる場合は、安全上①②以外の引率者が必ず管理ください。

2. 当日の対応

(1) 職員との打ち合わせ

- ①当日の流れの確認：気象・海象状況や、参加者の動き、活動エリアを確認します。
- ②名簿の確認：名簿に変更はないか確認します。
- ③健康状態の確認：体調不良者や配慮を要する者はいないか確認します。
- ④無線の確認：無線の使い方を確認します（主として堤防監視員）。

(2) 役割ごとの配置

①堤防監視員：活動中は、馬形川消波ブロック先端付近で監視します。

ア. 通常時：全体（海上・陸上）に目を配り、異変・異常があれば無線で職員へ報告します。

イ. 緊急時：自然の家職員の指示の下、救助補助を行います。

- ・監視艇の進入可能場所の目印となるため、腰の位置まで海へ入ります。
- ・監視艇から救助された者を安全地帯へ（陸上）へ誘導します。
- ・要救助者の氏名、体調の確認を行います。
- ・必要に応じ、応急手当や救命処置をします（事前に AED 保管場所を確認します）。

ウ. その他：ライフジャケットを着用し、無線機・ホイッスルを携帯します。

②監視艇救助員：活動中は、動力船に自然の家職員と同乗する。

ア. 通常時：監視艇（動力船上）から海上監視を行い、異変・異常があれば職員へ報告します。

イ. 緊急時：自然の家職員とともに、救助を行います。

- ・状況により、救命浮環・スローバック等を使用します。
- ・要救助者の意識がない場合は、ボートフック等で引き上げます
(救命浮環・スローバック・ボートフックの使用法及び引き上げ方法は、自然の家職員が事前指導を行います)
- ・要救助者の氏名や体調の確認を行います。

ウ. 前提：ライフジャケットを着用します。

3. 活動エリア全図



4. 参考（活動用具写真）



カヌーとパドル



ゴムボートとオール



救助艇（動力船）



小学生用ライフジャケット（股紐付き）



中学生以上用ライフジャケット



引率者用ライフジャケット